

「威海臨海技術開発区」(ウィハイ・インキュベーション・プロジェクト)

山東省・威海にこれまでない、斬新なコンセプトの開発区が設立される。

【開発区のコンセプト】

- 目的 : 研究・開発のみを行う。
- 分野 : 環境関連事業・省エネ関連事業を優先
- 業態 : 中国と外資の合弁事業、または開発の委託契約
共同研究・開発を目的としており、完成された技術の商品化等は対象外、
高度な専門性のある技術（開発中の技術や企画段階でも可）の継続的な研究・
開発を支援、原則として量産は行わない。（製品化のための試作も可能）

【開発区概要】

- 場所 : 山東省・威海市（威海臨港経済技術開発区内）
- 面積 : 敷地面積 33 万 m²
- 工場 : 約 3 万 m² （1,440 m² 3 階建て 7 棟）



* 開発区内施設計画

- 1) オフィース棟 (20,000 m²)
- 2) スタッフ住居施設 (2 棟 総面積 15,000 m² 収容人数 1,000 名)
- 3) 管理職員住居施設 (2 棟 総面積 12,000 m² 収容人数 500 名)
- 4) 上級幹部住居施設 (2 棟 総面積 20,000 m² 住居戸数 300 戸)

* 施設内住居人数 (約 2,000 人～3,000 人 管理者・幹部家族を含む)

日本から赴任した、上級幹部・技術顧問の住居設備利用は原則無料

【研究・開発事業】

- 中国資金支援集団：原則として、研究・開発に必要な全ての資金を支援
- 威海開発区： 開発に必要なスタッフ・設備・施設の提供
- 日本企業： 希望する研究・開発事業の技術を提供、
開発計画の策定、及び開発スケジュール管理・報告
- 共同業務（開発区と日本企業が共同で行なわなければならない業務）
 - 1) 中国資金支援集団（個人・法人スポンサー）への開発経過状況報告
 - 2) 研究・開発に必要なスタッフの教育
 - 3) 研究・開発で得られた、知的所有権の管理
 - 4) 業務遂行に必要な情報・設備等の管理
 - 5) 技術情報の漏洩防止対策（セキュリティーシステムの構築と運用）

【研究・開発技術推進と技術提供】

- 1) 日本企業は研究・開発の推進・管理に必要な指導・管理スタッフを開発区内に常駐させることを原則とする。
- 2) 研究・開発に必要な資材・設備は中国国内調達を原則とする。中国国内で調達出来ない、部品や資材・設備は、日本企業の責任において実行する。
- 3) 研究・開発を希望する日本企業は、該当する事業における技術ノウハウをスポンサーの求めに応じて提供しなければならない。将来に渡り継続して、特殊な部品等を現物支給・提供する場合を除く。

【開発成果の活用】

- 1) 中国資金支援集団（スポンサー）の支援対価
中国スポンサーは、研究・開発の資金支援の対価として、中国国内における事業展開（製品の製造販売、知的所有権の使用契約等）の権利を有する。
- 2) 日本企業の技術提供の対価
研究・開発の成果、及び量産技術のノウハウを、資金・人材・時間等の負担を負うことなく、無償で短期間に取得することが出来る。この成果を日本に持ち帰り、商品化によって、事業有益を得ることが可能となる。
*相互の市場保護は、個別契約により行う。
- 3) 開発後の中国での量産及び、中国国内市場への展開（日本企業）
研究・開発完了後、中国で量産を行うことが前提の場合、開発委託契約時に合弁企業等の設立で、量産事業化も可能とする。また、同様に中国国内への事業展開も個別契約等によって実行することも出来る。

＜威海レポート＞

シリウスブログより転載 <http://ameblo.jp/jpwinwin/entrylist.html>

2014-09-23（臨港経済技術開発区 1）

今回の訪中、山東省・威海臨海開発区からの要請で、18日～20日の予定で、威海を訪問しました。

これまで、中国各地にある開発区とは全くことなる目的を掲げて、設立されています。

開発区の目的は、環境・省エネに特化した、「研究・開発事業」を行うことです。

海外の高度な未完成の技術を、この開発区で先進的支援体制を構築して、研究・開発を行うことにあります。製品・装置の量産は対象外です。



資金力や人材に乏しい、日本の中小企業にとって、心強い、パートナーになります。
ご興味のある方は、下記のメールにお願いします。

mail@jpwinwin.com

弊社が、この開発区の日方を担当します。

2014-09-24（地理）

山東省威海市は、山東の最東端に位置し、三面（東・北・南）が海に面しており、外洋（黄海）に突き出ているために、澄んだ海が印象的である。

海岸線は、平地が広がり、豊かな海を満喫出来る。緯度は、日本の新潟と同緯度で、長崎－威海の直線距離は、約 600Km 長崎－上海とほぼ同じ距離にある。

日本との直行便はなく、上海・青島又はソウル経由となる。青島からは約 100Km、車で 90 分、本年年末には、高速鉄道が開通して、約 30 分で移動出来る予定。

2014-09-25 （山東省）

威海がある山東省は、面積約 16 万 K m² (九州の 4 倍) 人口は約 1 億人韓国に最も近く、面積も人口も韓国を上回る。威海市は、面積 5,430K m²、人口 250 万人面積、人口ともに、福岡県と同等である。

韓国の仁川とは、約 200Km と近く交流も盛んで、4~5 万人の韓国人が住んでいるそうで、町中にはハングルの看板がある。

歴史的に、多くの逸材を輩出している。

孔子・孟子・孫子・諸葛孔明…… (2010 年ノーベル文学賞を受賞した、劉曉波)

有名な小説『水滸伝』の舞台でもある。近年では中国の大きな負の遺産 (文化大革命の江青) …

多くの農産物・海産物を日本に輸出し、経済的には、上海・広東省に次いで、大きな実力・実績を持っている。

2014-09-26 （研究・開発）

今回は、山東省・威海市の要請をうけて、現地に行ってきました。

威海市では、これまでと全く異なる、ユニークなコンセプトで、研究・開発に特化した開発区を計画しています。(広さ 3 万 m²、1,500 m² の工場 7 棟)

ここでは、日本の最先端技術の研究・開発を支援する体制を整えています。

費用は原則無料です。(環境・省エネ関連事業のみ)

条件は、研究の成果を中国市場で事業化する(中国側)ことと、

研究開発推進に必要な技術者を常駐させることです。

日本企業は、開発の成果を自由に持ち帰り、日本で製品化することが出来ます。

この開発区で、量産を行うことはありません。

実証実験が必要で、時間と手間を要する、中小企業の開発に如何でしょうか。

研究内容には、中国側に審査はありますが、日本の助成金と違い、金額の上限も期限の限定もありません。

対象となる企業がありましたら、是非ご紹介下さい。

研究・開発に必要な費用は、全て中国サイドが負担します。

お問い合わせは、下記メールをお願いします。

2014-09-27 （対象企業）

威海開発区のコンセプトは、「先端技術の研究・開発支援」です。

事業分野は、環境・省エネおよび、中国に大きな貢献が期待できる技術、原則として、研究開発に必要な資金は、全て中方で支援されます。

対象として推薦出来る企業は、現在も将来も独自に中国国内での事業展開を考えていない企業様です。研究開発の支援の前提として、その技術をオープンにしなければならず、中国展開は、支援したパートナーが実施することになります。

従って、将来独自に中国国内展開を考えて企業には、ライバルを作ることになり、パートナーの事業の障害になるためです。視点を変えれば、中国での展開を考慮しなければ、その技術が中国側に渡っても、直接的には本業に影響を与えることはありません。

問題があるとすれば、その技術が日本に逆流することです。これは、日本での特許は、日本への輸出を行わない等の契約条件で、一定の歯止めは対策出来ます。

開発後将来、中国に大きな市場が見込める場合は、パートナーとの新たな合併事業によって、中国展開も可能です。

**単独で中国進出や、技術開発が困難な企業様には、リスクの少ない、事業展開が可能になります。
企業規模・開発予算・開発期間等に制限はありません。**

2014-09-28 （研究・開発の目的）

30 年余、中小企業の経営をしてきて感じることは、

トップが技術者の技術系の中小企業では、高い技術を持ちながら、「研究開発が目的化」していることです。事業は、「研究開発が目的」では、事業収益に貢献しません。「事業化を目的」として。「研究開発」を行う。研究開発は、事業展開への手段に過ぎません。

**開発した技術を如何に、製品化に結び付け、「事業の収益を、上げるか！！」
これが、開発の目的にすることが肝要です。**

開発した技術を、企業内に留めてるのは、「経営者の自己満足！！」

事業化への高い目標を持って、集中的・効率的・敏速に、研究・開発をしませんか？

山東・威海では、その支援をしています。

2014-09-29 (W-J.iP)

W-J.iP (Weihai-Japan.incubation Project) 威海-ジャパン . インキュベーション プロジェクト

山東省・威海市の開発区に、海外企業の技術を導入して、製品化に向けた、研究開発専門の開発区が設立されます。

開発区の面積は、約 33 万㎡建物は、約 3 万㎡(1,440 ㎡ 3 階建て 7 棟)

開発費用は原則・中方負担企業規模・開発期間・開発費用等に制限はありません。

完成された技術の商品化ではなく、継続して研究・開発を実施する企業を求めています。

日本事務所は、11 月開設(長崎)予定、



2014-10-02(開発支援)

平成 25 年度「ものづくり助成」の採択が発表されました。

申請件数、14,502 社 採択数、 4,818 社

3 月から始まり、3 回の公募で申請した企業数は約 37,000 社、採択された企業数は約 14,500 社、
採択されず、涙をのんだ企業 約 22,500 社

成否の理由は様々でしょうが、中には、審査員が理解出来ない技術も埋もれていると思います。

そもその、革新的新技術は、これまでにない技術で、高齢の審査員(自称技術者)が、理解出来るはず
もありません。

中国・山東省威海市の開発区では、日本の先端技術の研究・開発支援を行っております。

企業規模・開発期間・開発予算に制限はありません。

人材や資金力に乏しい、中小企業の心強いパートナーです。

2014-10-04 (メールマガジン)

＜山東省・威海市の技術・開発区のご案内＞

威海市では、前例のない、研究・開発に特化した開発区を計画しています。

(広さ 3 万㎡、1,500 ㎡の工場 3 階建て 7 棟 敷地面積約 30 万㎡)

ここでは、日本の最先端技術の研究・開発を支援する体制を整えています。

費用は原則無料です。(環境・省エネ関連事業優先)

条件は、研究の成果を中国市場で事業化する(中国側)ことと、研究開発推進に必要な技術者を常駐させることです。

日本企業は、開発の成果を自由に持ち帰り、日本で製品化することが出来ます。

この開発区で、量産を行うことはありません。(別途合弁会社で量産も可能)

実証実験が必要で、時間と手間を要する、中小企業の開発に如何でしょうか。

研究内容の技術審査はありますが、日本の助成金と違い、金額の上限も期限の限定
もありません。い。

研究・開発に必要な費用は、全て中国サイドが負担します。